



オオキツネノカミソリ「妖艶」に

～ 区立牧野記念庭園で見ごろを迎えています～

見 ころ オオキツネノカミソリ: 8月中旬ごろまで(写真は8月2日に撮影)

と ころ 区立牧野記念庭園 (東大泉6-34-4 / 交通: 西武池袋線「大泉学園駅」南口下車徒歩5分)

区立牧野記念庭園(東大泉6丁目)では、朱色の花を咲かせるオオキツネノカミソリが見ごろを迎えています。

オオキツネノカミソリは、牧野富太郎博士が命名した植物です。ヒガンバナ科の多年草で、花ことばは「妖艶」。名前の由来は、花に先立ち春に出る細長い葉をカミソリ(西洋カミソリ)に見立てて、「狐の剃刀」の名がつけました。

写真撮影に訪れた2日は、30株ほどが花をつけており、つぼみのものも多く見られました。8月上旬が一番の見ごろです。



【オオキツネノカミソリ1】

【オオキツネノカミソリ】

オオキツネノカミソリは、キツネノカミソリより花が大きく、長く突き出るおしべが特徴です。長さが30～40cmの花茎に4～6個の朱色の花をつけます。本州の関東以南と九州に分布しています。例年8月中旬ごろまで見ることができ、今が一番の見ごろとなっています。



【オオキツネノカミソリ2】

【牧野記念庭園(東大泉6-34-4)】

世界的に著名な植物学者である牧野富太郎博士が大正15年から94歳で亡くなる昭和32年まで居住し、自らが採取した植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園です。園内には牧野博士が発見し、妻の名をとって命名したスエコザサをはじめ、日本で最大級のセンダイヤ(サクラ)、ヘラノキなど300種類以上の植物が成育しています。記念館では、博士が植物採集や研究のために愛用した道具や日用品、直筆の執筆原稿、植物に関する書物から博士が採集した植物標本まで、博士の植物学の研究に取り組む姿勢を伺い知る貴重な資料が展示してあります。また、博士の書斎と書庫が覆屋内に当時のまま保存、公開されています。

交通案内: 西武池袋線「大泉学園駅」南口下車 徒歩5分

開園時間: 午前9時～午後5時 / 入園無料

休 園 日: 火曜(火曜が祝休日にあたる場合は、その直後の祝休日でない日を休園)、年末年始

【問い合わせ】牧野記念庭園 電話 03-3922-2920